

floating flow

納屋橋のたもとに堀川の『流れ』を引き込み、その『流れ』の中にjazz barを設計する。

名古屋城から、都市の玄関である名古屋駅と、繁華街栄の間を通り抜け、伊勢湾へと流れる堀川。
かつての水上の輸送路は、忘却の歴史を経て、今再び都市のオアシスとして甦ろうとしている。
納屋橋もまた、その優美な姿を水上にたたえながら、堀川の歴史の代弁者として、交通の要所から文化的オアシスへとその性格を変化させている。

この提案は、『流れ』によって、この場所の魅力をさらに高めるものである。

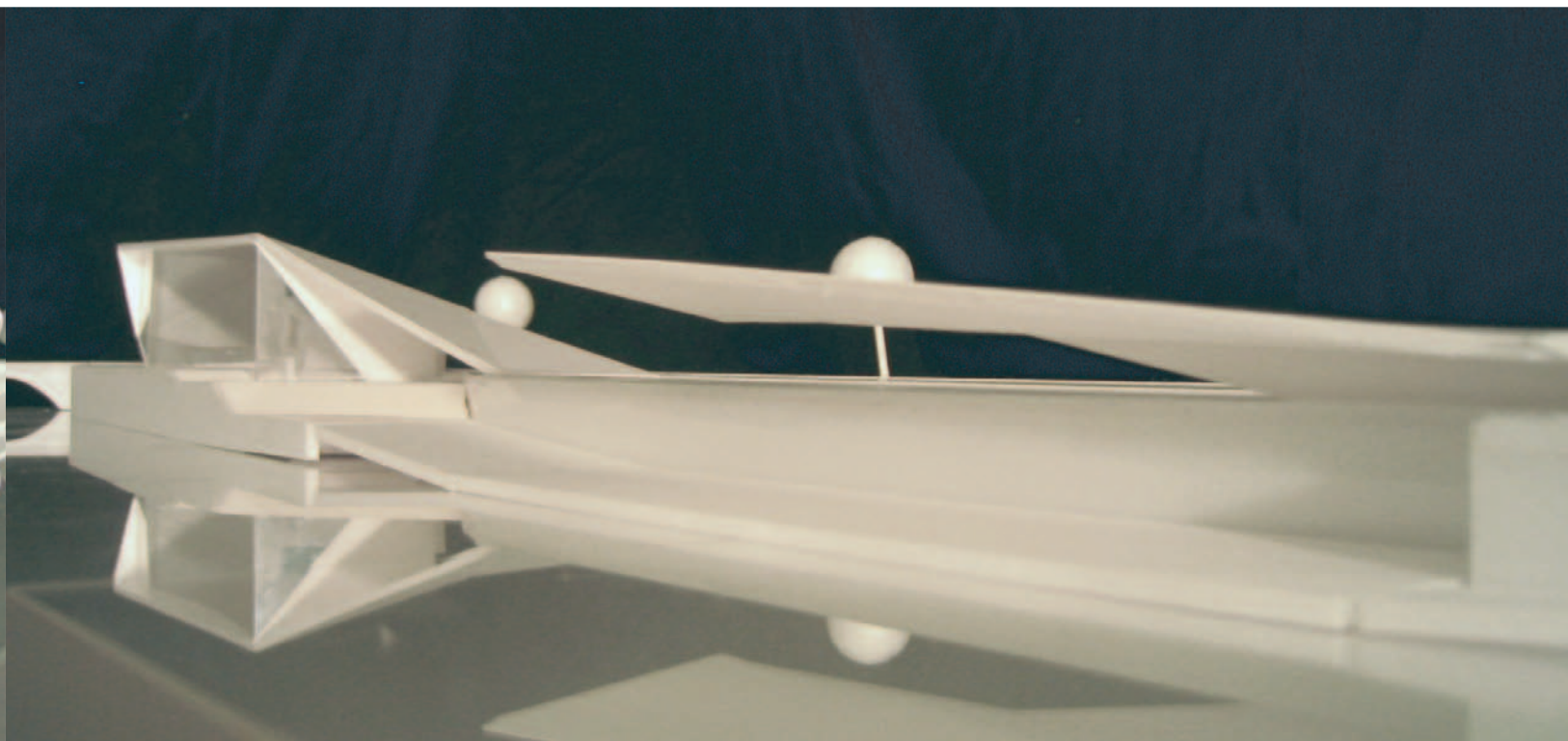
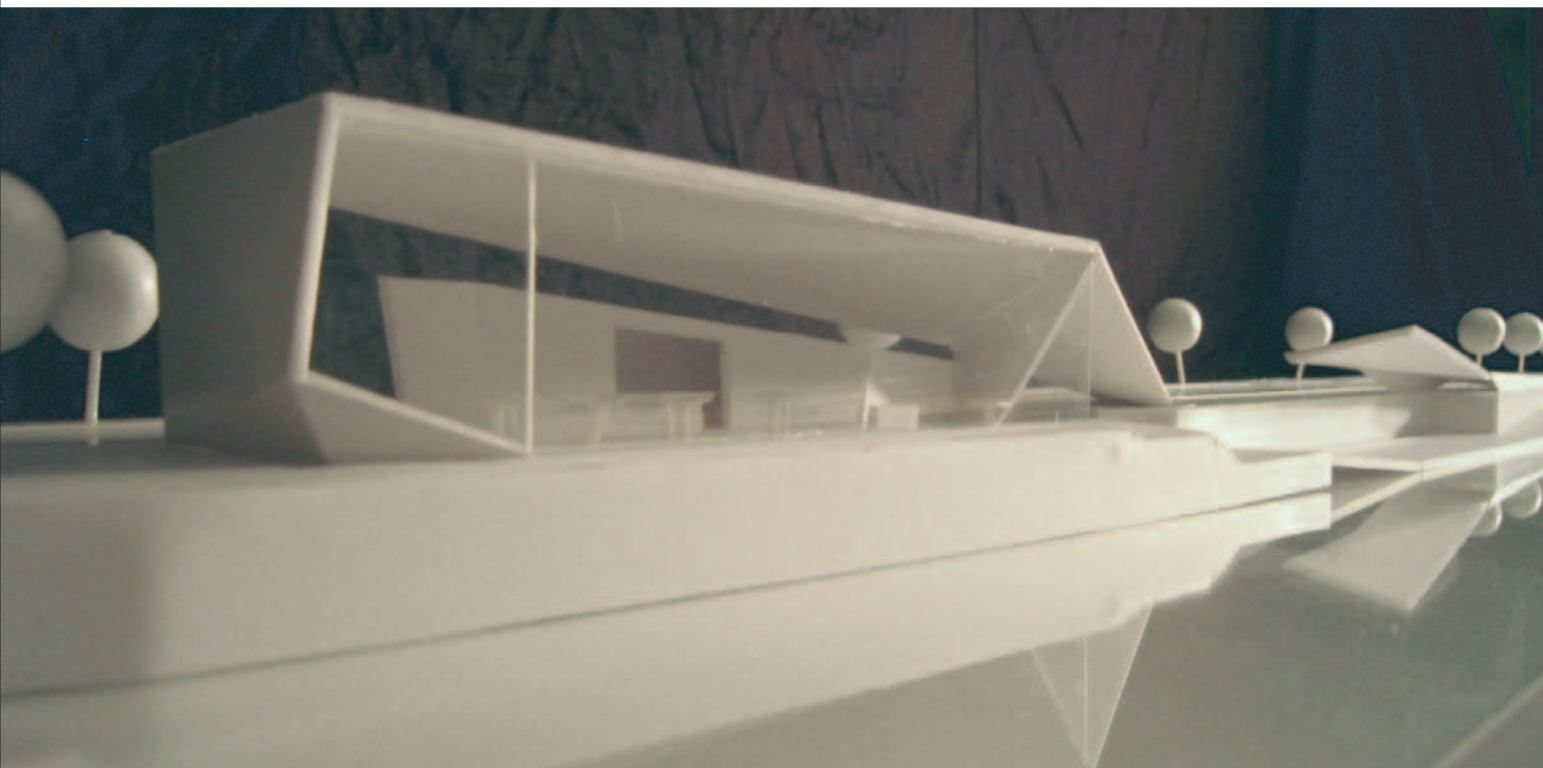
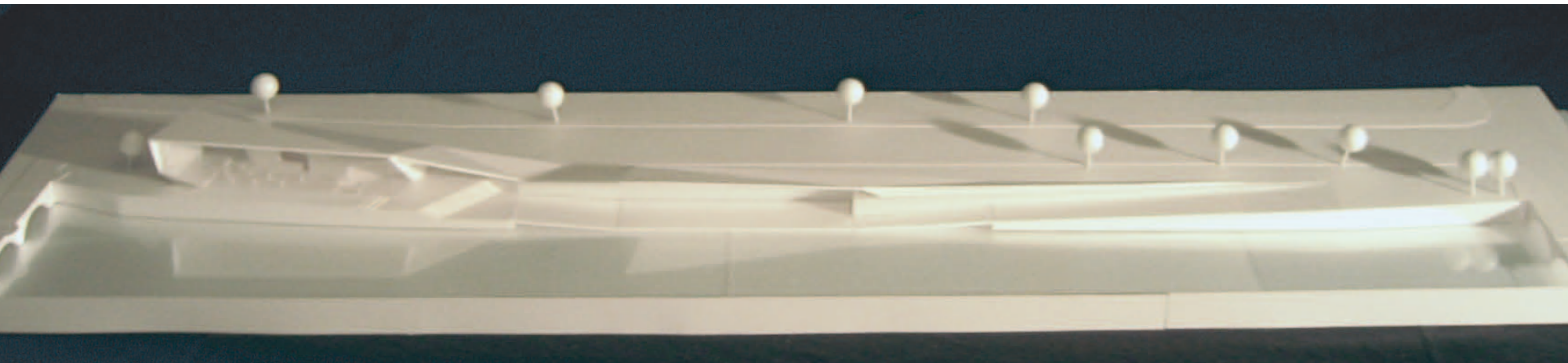
堀川を船で下る人々は、納屋橋に近づくにつれ聞こえてくる音色に魅せられ、そのまま川の流れを上るように、船着き場からバーへと導かれる。
あるいは、納屋橋を歩く人々は、jazzの音色を運び去る堀川の流れに誘われて、スロープを下りその流れに身を委ねる。

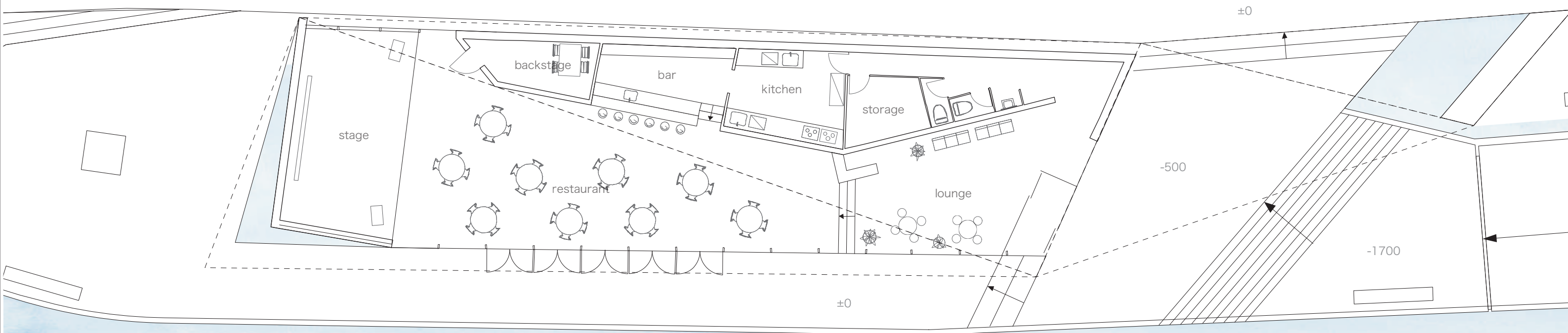
かくして納屋橋は、交通の要所から都市文化のノードに至る。

site

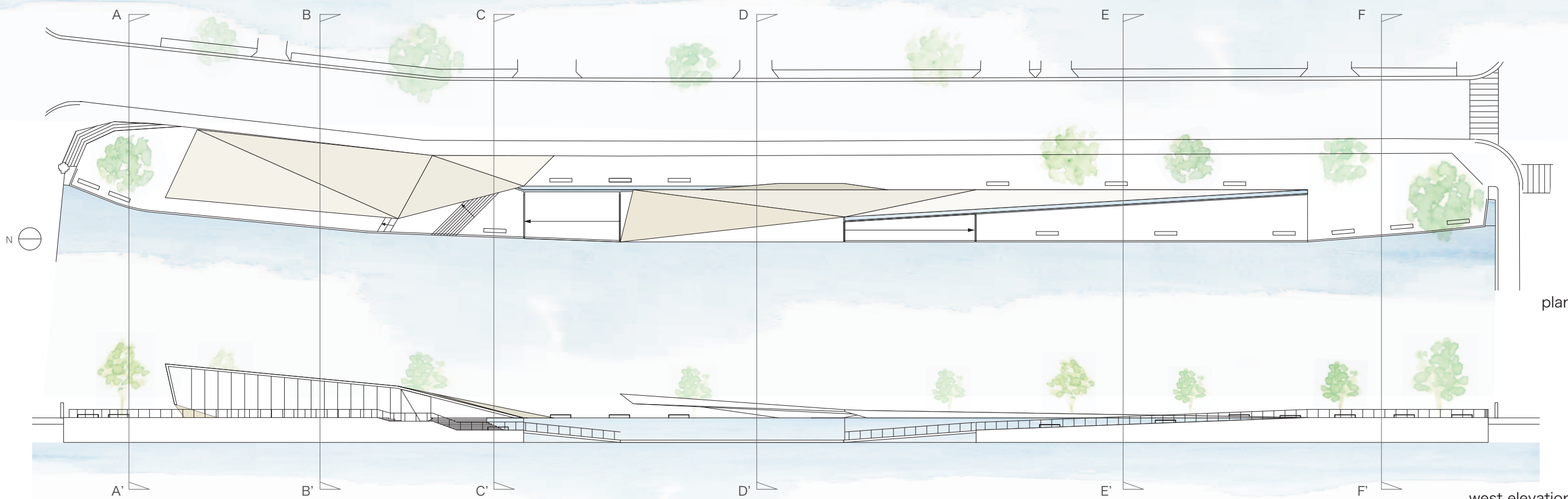


jetty



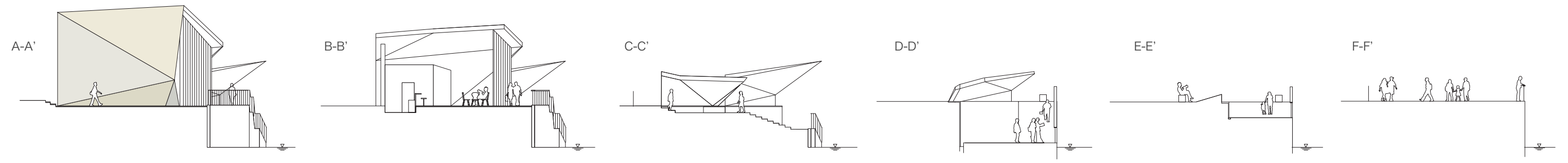


plan 1/100



plan 1/400

west elevation 1/400



section 1/200